

# 南蔵王の豊かな自然を次世代に引き継いでいきたい



左：理事長 白内 恵美子 さん  
右：理事 山田 静枝 さん

植林した木々は順調に生育していますので、多くの方にこの森に足を運んでもらい関心をもってもらいたいと願っています。そのため、自然観察ができる3つの周遊コース、ツリーハウス、丸太を使った平均台やターザンロープなどのちょっとしたアスレチックなど、大人も子どももワクワクする仕掛けを整備してきました。また、森づくりの技術を学ぶ「森の教室」、山菜を食するものや木の実のジヤムづくりなど自然を美味しく堪能するもの、親子キャンプなどのイベントも開催し、森の楽しさや素晴らしさを感じてもらおう機会も設けています。

＊森への関心を願って

＊新規会員を募集中

壮大な夢を実現するために、さまざまな課題をメンバー同士が協力し解決しながら、多くの方の力を借りて行ってきたこれまでの活動が評価され、平成29年に緑化推進運動功労者内閣総理大臣表彰を受賞しました。しかし課題はまだあります。それは後継者の育成です。ここまで復元した森を後世に引き継いでいくには、継続した育林活動が重要です。そのためには、若い世代の皆さんと一緒に活動していくことが大事だと思っています。特に子どもたちには、この場所が森になっていく過程を見守ってもらいながら、一緒に森を守る取り組みに参加してもらいたいのです。

まずは、さまざまなイベントを通して、森の楽しさを感じてもらいたいと思います。直近では、10月14日(日)に育林とヤマボウシのジヤムづくりを行いますので、ぜひ参加してみませんか。また、詳細な会の情報はホームページに掲載していますので、併せてご覧いただければ幸いです。



白石を拠点に活動するNPO法人「蔵王のブナと水を守る会」をご存じですか？ 南蔵王に広がるブナ原生林を伐採から守り、南蔵王野営場や白石市との共有地で荒地だった場所を元のブナやミズナラの落葉広葉樹の森に戻そうと、植林活動を行ってきました。今も自然と親しみながら南蔵王の森づくりを継続しています。今号では、会の取り組みについて、メンバー3人のインタビューをご紹介します。

☎生涯学習課 ☎22-1343

▲平成28年11月に完成した手造りのツリーハウス

## じょうかまち 城花町しろいし

NPO法人 蔵王のブナと水を守る会

＊地道な活動



理事 なかむら ときひろ さん 仲村 得喜秀 さん

昭和61年に会を発足し、平成11年には宮城県初のNPO法人に認定されました。多くの個人や企業の方々に賛同と協力をいただき、荒地地を日本古来の動植物たちにとって一番すみよいブナやミズナラなどの落葉広葉樹が生い茂る森に復元するため、植林活動や植林地の整備を行ってきました。これまで30年以上にわたり活動してきましたが、さまざまな困難を乗り越えて今に至ります。

その一つが苗作りでした。当初は苗を購入していましたが、予算の関係から自前で苗を育てることにしました。南蔵王の地に直まきを試みるも、厳しい自

＊試行錯誤の末の植林方法

然環境からうまくいきませんでした。結局、白石近郊の畑で苗を育てました。これまでに4万本以上を植林してきましたが、そのほとんどは自分たちで育て上げた苗です。

植林方法も非常に頭を悩ませたことの一つです。最初に復元を目指した場所は雨風の吹きさらしがひどく、養分の全くない荒地でした。そのため、何度植林を繰り返しても全く木々が生長しませんでした。しかし、試行錯誤の末に「先駆性樹木混植法」を編み出しました。南蔵王の荒地地では、ヤマハンノキを活用したこの方法が功を奏し、当初の予定より早く木々が生い茂りました。現在、鳥や動物、風がさまざまな樹種の種子を運び、自然に苗木が育ち、森の様相に近づいています。

今はこれまでの植林活動を休止し、枝打ちや間伐などの育林活動をしています。また、これまで培ってきたこの経験を活かして、東日本大震災で被災した沿岸部の防潮林の再生を支援しています。



イベントなど問い合わせ先  
白内：090-4045-0849

1\_平成24年9月に完成した拠点の手造り丸太小屋 2\_植林したブナの木の实 3\_毎年5月に開催している「山菜を食べる会」では、さまざまな森の恵みが楽しめます 4\_手造りアスレチック 5\_植林活動の結果、荒地が森の様相に近づいています